

東日本大震災福島県復興ライブラリー

ブックガイド

No. 7

2014.1.28

■原子力問題・過去の原発事故

『チェルノブイリ・ダークツーリズム・ガイド』

東 浩紀／編 ゲンロン 2013.7 369.3/アコ137/

ダークツーリズムとは、戦争や災害等、負の遺産をたどりつつ、その地域の悲しみを共有しようとする観光のことです。チェルノブイリの事故が1986年に起きてから25年以上経ち、チェルノブイリ原発の状況が日本国内で報道されることは、福島第一原発事故が起きるまではほとんど稀になっていました。ダークツーリズムは、事故を記憶し共有するための1つの手段です。

2部構成で、取材陣が体験したチェルノブイリツアーを紹介した「観光編」が第1部、様々な立場の人にチェルノブイリの今と未来について取材し、社会学者が考察を加えた「取材編」が第2部です。

■文学・体験記

『僕たちが見つけた道標』

兵藤智佳／著 晶文社 2013.7 LS369.31/H13/1

他の被災地とは事情の違う福島。原発事故のため故郷への立入が制限されている双葉高校の生徒たちと、被災地・福島のために何かしたいがどう関わればいいのか戸惑っていた大学生たちが、夏休みに勉強合宿をするボランティアで出会います。大学生は、場の設定、学習教材の確保、サプライズの準備や学習の指導などに奔走しながら、福島復興のために農業や放射線技師、教員を目指す一途な高校生たちから多くのことを学びます。高校生と大学生の成長物語です。

『あの日からもずっと、福島・渡利で子育てしています』

佐藤秀樹／著 かがわ出版 2013.6 LS543.4/S41/1

福島市渡利で生活する子どもやおとなの姿を伝えています。「福島の現実」はそれぞれの人によって異なること、「避難させられている人」、「自主避難した人」、住んでいる地域、個人によって放射能に対する考えはさまざまです。その中で、福島県の外側からの意見ではなく、福島県にいる人たちが、これからのためにみんなで「話し合い、力を合わせていこう」という著者の想いが伝わってきます。

■メディア・報道・写真集

『メディアが震えた テレビ・ラジオと東日本大震災』

丹羽美之・藤田真文／編 東京大学出版会 2013.5 699.21/ニヨ135

デジタル情報が飛躍的に進歩した時代にあって、最初の大惨事とも言える「東日本大震災」に対し、テレビやラジオは、どのような取材を行い、報道したのかを検証した一冊。

災害時にあって、その復旧と復興に果たしたメディアの役割と、「報道格差」に代表される課題を明らかにすることで、今後のメディア研究、ジャーナリズム研究に多角的に迫っています。

■各組織の震災対応

『未来への翼 福島県飯舘村の中学生が挑んだドイツ研修』

「までい」特別編成チーム／[編] SAGA DESIGN SEEDS 2012.2 LS376.3/M4/1

「手間ひま惜みせず」「丁寧に」「心をこめて」「つつましく」という意味で使われる方言、“までい”。飯舘村では、この“までい”を理念の軸に、村づくりをすすめてきました。

この本は、震災後間もない2011年8月、全村避難中の飯舘村の中学生18人が、「脱原発」を決めたドイツの“までい”を探す旅へ出た記録です。人との触れ合い・自然・まちづくりや再生エネルギーなど、多くのことを学んだ中学生たちがドイツで感じた“までい”は、未来への希望と笑顔に溢れていると感じました。

■復興・防災

『復興ツーリズム 観光学からのメッセージ』

総合観光学会／編 同文館出版 2013.3 689.212/ソウ 133/

これからの復興について考えていく上で、観光産業は不可欠なものの一つではないでしょうか。本書は、東日本大震災後の観光について考察する論文集です。災害と観光、風評被害、ボランティアツーリズム、震災から学ぶ旅、記録と記憶、そして観光が被災地に対して出来る貢献についてなど、様々な視点から、現在とこれからの東北地方の観光について考えています。復興に向けて、観光学の視点からの示唆を得られる一冊です。

■エネルギー

『それはエコまちがい？ 震災から学んだ、2030年の心豊かな暮らしのかたち』

石田 秀輝／監修 田路 和幸／監修 物部 朋子／絵 東北大学大学院環境科学研究科震災復興提言ワーキンググループ／編集 プレスアート 2013.8 501.6/化 138/

震災を機にエネルギー問題に対する関心は高まりました。エコな生活を心がけようと思った人も多いはずですが、しかし、エコとは何か、と問われると回答に迷う人もいるのではないのでしょうか。物理的に豊かな生活に慣れてしまった私たちは、エネルギーを節約する生活に不便に感じることもあります。この本では、少しのエネルギーで心豊かに暮らすためにはどうしたらよいか、その考え方や暮らしのかたちを紹介しています。エコとは何か、豊かさとは何かを考えるきっかけになる一冊です。

■子ども向け

『3・11 を心に刻むブックガイド』

草谷桂子／著 子どもの未来社 2013.11 369.31/ク 13Y/

東日本大震災後、人々の「伝えたい」という思いが、数多くの本になりました。この本には子どもの本を中心とした、創作、ノンフィクション、紙芝居、マンガ、そして地震や津波、エネルギー、放射能汚染等に関する科学の本が300冊紹介されています。著者の草谷桂子氏は、この本を執筆するための調査で福島県立図書館にも訪れています。これからの子どもたちに震災を伝えるとき、参考になる資料です。